



1 特定健康診査受診率向上対策事業

取組	新規	継続	H30	H31	H32	H33	H34	H35
1 40～50歳代未受診者への受診勧奨		●	実施					
2 ワンコイン受診（連続受診者又は40歳の者）	●		実施予定					
3 若年集団健診（30歳及び35歳での節目健診）	●		準備	準備	実施予定			
4 受診者への健診データと生活改善アドバイスの全数通知	●		準備	実施予定				
5 未受診者はがき勧奨		●	実施					
6 みなし健診		●	実施					
人間ドックや職場健診等の結果を特定健診の受診率として取り込む								
かかりつけ医で実施された検査結果を特定健診の受診率として取り込む	●		調査	調査	協議	協議の結果可能な場合実施予定		

2 特定保健指導実施率向上対策事業

取組	新規	継続	H30	H31	H32	H33	H34	H35
1 個別初回面接参加促進のためのインセンティブ	●		実施予定					
2 特定保健指導の委託化	●		調査	調査	協議	協議の結果可能な場合実施予定		
3 特定保健指導利用勧奨		●	実施					
4 運動習慣促進支援		●	実施					
5 集団支援		●	実施					

3 重症化予防対策事業

取組	新規	継続	H30	H31	H32	H33	H34	H35
1 要医療者への受診勧奨		●	実施					
2 血圧・血糖のハイリスク者への保健指導		●	実施					

4 糖尿病性腎症重症化予防対策事業

取組	新規	継続	H30	H31	H32	H33	H34	H35
1 糖尿病性腎症重症化予防		●	実施					

その他の保健事業

人間ドック等
助成事業

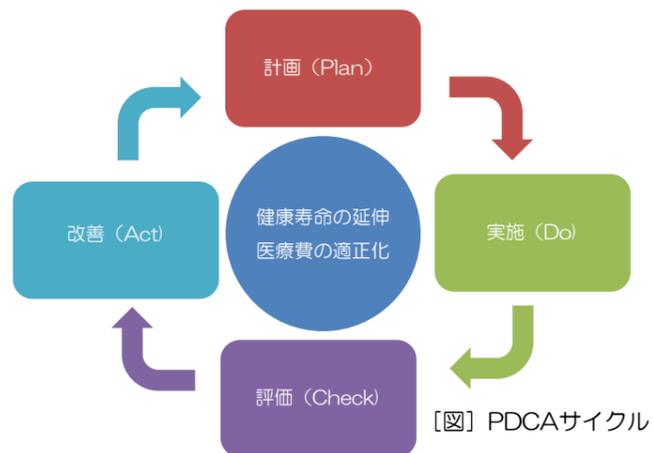
健康教育事業

重複頻回受診者
訪問事業

その他関係部署・
機関との連携事業

評価 計画の評価・見直し

中間評価を平成32年度に行い、最終年度となる平成35年度に本計画に掲げた目標の達成状況を評価し、PDCAサイクル（図）に沿って、計画の見直しを行う。



鎌ヶ谷市では、平成28年に「健康寿命の延伸」と「医療費の適正化」を目指して、「鎌ヶ谷市国民健康保険保健事業実施計画（データヘルス計画）」を策定し、保健事業を実施してきました。計画に掲げた目標の達成状況や課題を踏まえ、保健事業をより一層効果的に実施し、その評価を行うため、PDCAサイクル（P.4図）に沿って、第2期となる保健事業実施計画を策定しました。

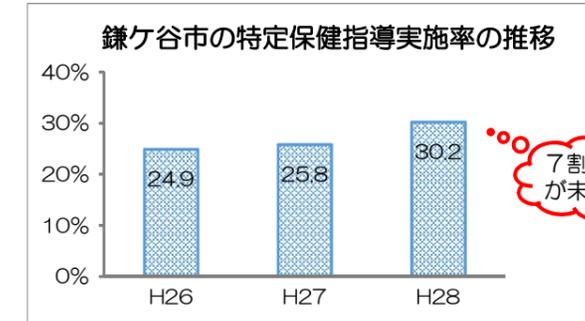
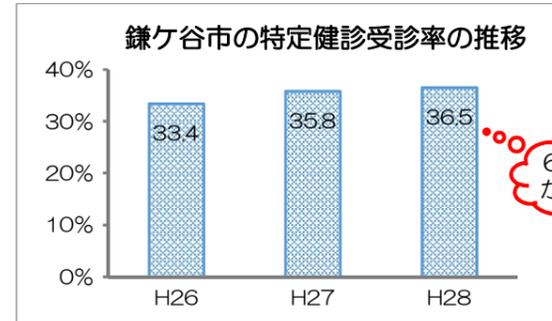
また、厚生労働大臣が定める「保健事業実施指針」の一部改正において「可能な限り実施計画と特定健康診査等実施計画を一体的に策定することが望ましいこと」とされていることから、「鎌ヶ谷市国民健康保険特定健康診査等実施計画（第3期）」と一体的に策定をしています。

データヘルス計画第1期のまとめ

★実施した保健事業

- ◆特定健康診査受診率向上対策事業
- ◆人間ドック等助成事業
- ◆特定保健指導実施率向上対策事業
- ◆健康教育事業
- ◆重症化予防対策事業
- ◆重複頻回受診者訪問事業

★特定健康診査と特定保健指導の結果



★特定健康診査について

- ◆平成28年度から開始した人間ドック等助成対象者の結果の取り込みによる、受診率向上は微増となった。対象者の6割が未受診であり、40歳代・50歳代への健診受診勧奨については、電話による勧奨ができた人は全体の35.6%にとどまっている。未受診者アンケートでは対象年齢によって未受診理由が異なっていた。
 - ◆平成29年度からは生活習慣病の重症化予防を強化するため検査項目を見直し、腎機能と尿酸代謝の検査を追加して実施した。
- ➡ 周知活動の強化と、対象者がより受診しやすくなるよう、実施方法の工夫が必要である。

★健康教育について

- ◆講座等で、生活習慣病等に関する指導及び教育を実施した。
- ➡ 市民の医療・健康・病気に関する理解がより深まるよう継続して実施する。

★特定保健指導について

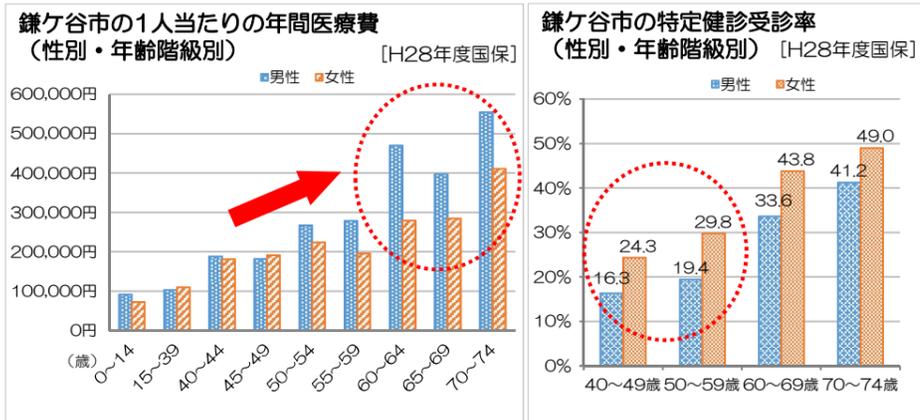
- ◆訪問による利用勧奨を強化し、実施率は増加傾向になっているが、特定保健指導利用者が、翌年特定保健指導の対象外となる割合は横ばいである。
- ➡ 対象者が利用したいと思えるような実施方法や健診結果の改善に効果的な特定保健指導の実施方法の見直しが必要である。

★重症化予防について

- ◆平成29年度から人工透析への移行を予防するため、糖尿病性腎症重症化予防事業を開始し、糖尿病治療中で糖尿病性腎症重症化リスクの高い人に保健指導を実施した。
 - ◆血圧・血糖のハイリスク者に対する保健指導を実施し、6割の人は健診結果が改善した。
- ➡ 血圧・血糖のハイリスク者の健診結果改善率をさらに向上させるため、より効果的な受診勧奨を実施する必要がある。

※本計画は、主に国保データベースシステム（医療・特定健康診査・介護のデータが紐づけられ、統一された指標、基準で全国や千葉県、同規模の市町村と比較することができるシステム）及び鎌ヶ谷市が集計している国民健康保険の概要から、国民健康保険被保険者（国保）のデータを集計することで作成しています。

1 特定健康診査受診率向上対策事業



分析と課題

- 40歳~50歳代の特定健康診査受診率が低い
- 60歳代以上で1人当たり医療費が増加
- 40歳~50歳代の未受診者に対して早期に受診勧奨し、健診結果から自身の健康状態を把握してもらうことが重要

主な取組

- 受診率の低い40~50歳代未受診者への受診勧奨**
【電話勧奨】専門職を中心に電話による情報提供と受診勧奨を行う。
【訪問勧奨】訪問による情報提供と受診勧奨を実施する。市内6地区を順次訪問する。
- 7年コイン受診(予定)**
連続受診者又は40歳の者は、自己負担1,000円の健診費用を500円に軽減する。
- 受診者への健診データと生活改善アドバイスの全数通知**
経年健診データと生活改善アドバイスに関する通知を行う。

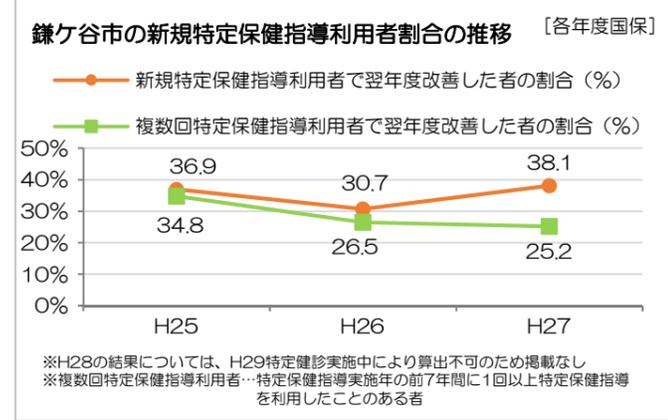
最終目標
「特定健康診査受診率 44%」
(現状H28: 36.5%)

単年度目標
「40~50歳代特定健診受診率 1ポイント向上」
(現状H28: 22%)

H30	H31	H32	H33	H34	H35
24%	25%	26%	27%	28%	29%



2 特定保健指導実施率向上対策事業



分析と課題

- 特定保健指導実施率は30%となっている
- 新規特定保健指導利用者は、複数回特定保健指導利用者と比較して翌年の健診結果の改善率が高い
- より多くの被保険者の行動変容を促すため、特に改善率の高い新規特定保健指導利用者に対し働きかけていくことが重要

主な取組

- 個別初回面接参加促進のためのインセンティブ(予定)**
初回面接参加のきっかけづくりとして、継続実践できる健康グッズ等を配布する。
- 集団支援**
生活改善の実践に結びつくよう、体験型の講座(セミナー・調理実習等)を、初回面接と同時実施する。

最終目標
「特定保健指導実施率 37%」
(現状H28: 30.2%)

単年度目標
「新規特定保健指導利用者割合 1ポイント向上」
(現状H28: 36%)

H30	H31	H32	H33	H34	H35
38%	39%	40%	41%	42%	43%

目的

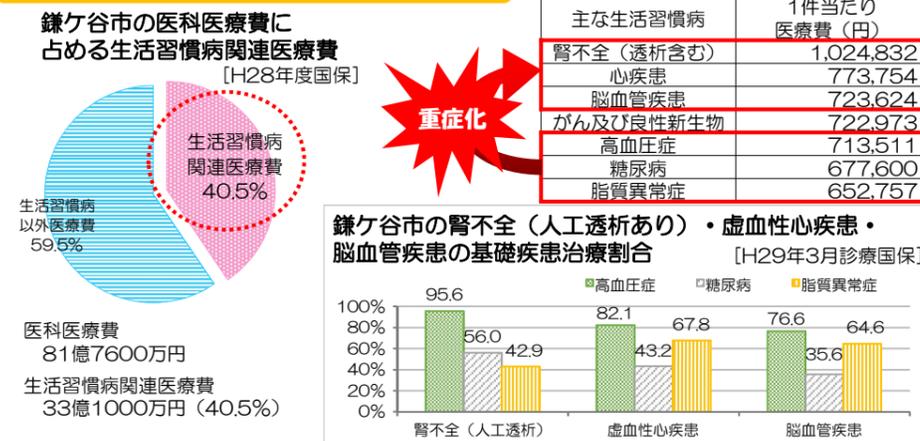
【健康寿命の延伸】
目標
平成31年度 男女ともに延伸
※5年ごとの公表を基に評価
参考 H26 男性65.4歳
女性67.1歳

【医療費の適正化】
目標
1人当たりの年間医療費の平均伸び率

- 平成32年度 3.7% (H28~31の平均値)
- 平成35年度 3.6% (H32~35の平均値)

参考 H20~23 3.9%
H24~27 3.8%

3 重症化予防対策事業



分析と課題

- 生活習慣病関連医療費が内科医療費の約40%を占める
- 腎不全・心疾患・脳血管疾患の順に1件当たり医療費が高い
- 基礎疾患として高血圧症や糖尿病を併せ持つ割合が高い
- 重症化した生活習慣病が医療費を引き上げる一因になっている
- 血圧・血糖のハイリスク者へ、重点的に指導を行うことが重要

主な取組

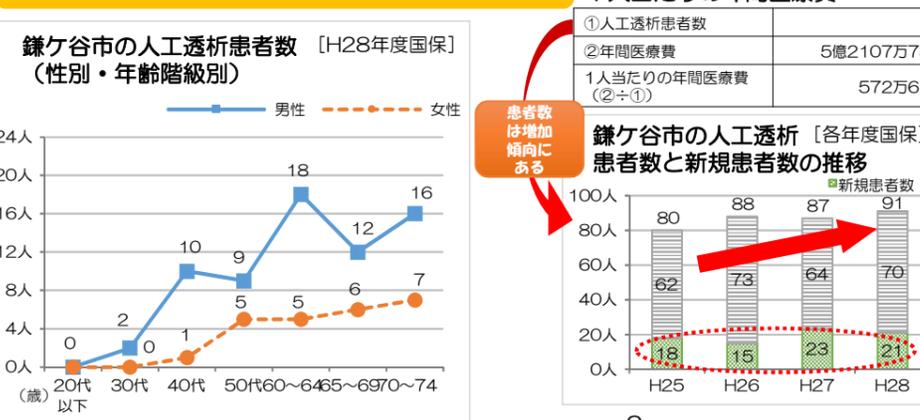
- 血圧・血糖のハイリスク者への保健指導**
郵送にて情報提供を行い、事前にレセプトで医療機関未受診であることが確認された人に対し、電話による保健指導を実施する。電話で確認が取れなかった人に対しては、訪問を実施する。
支援ができた「血圧・血糖のハイリスク者(服薬なし)」の人については、その後、継続的に医療機関への受診状況をレセプトで確認し、状況により必要がある人には支援する。
福祉や介護等の支援を要する人は、他機関と連携し支援していく。

最終目標
「健診受診者の血圧・血糖のハイリスク者出現率の減少 5%未満」
(現状H28: 5.0%)

単年度目標
「健診受診者の血圧・血糖のハイリスク者(服薬なし)の医療機関受診率 1ポイント向上」
(現状H28: 55%)

H30	H31	H32	H33	H34	H35
57%	58%	59%	60%	61%	62%

4 糖尿病性腎症重症化予防対策事業



分析と課題

- 人工透析患者は、男性が40歳代から急増している
- 人工透析になると1人当たり約570万円の医療費が発生する
- 約56%の人工透析患者が糖尿病治療をしており、糖尿病は人工透析が必要になる等重症化しやすい
- 早期に支援し、糖尿病の重症化による人工透析への移行を防止することが重要

主な取組

- 糖尿病性腎症重症化予防**
対象者の中から、保健指導効果が高いと思われる人を抽出し、生活改善のための保健指導を実施する。

最終目標
「新規人工透析患者数の減少」
(現状H28: 21人)

単年度目標
「保健指導実施者のうち改善に向けた行動変容が見られる者の割合 前年度比増加」
(平成29年度開始事業であるため、現状値の算出不可)

その他の保健事業

- 人間ドック等 助成事業
- 健康教育事業
- 重複頻回受診者 訪問事業
- その他関係部署・機関との連携事業

データヘルス計画第2期における課題と対策